

## 令和2年11月27日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

静岡市内でも新型コロナウイルスの感染者が増えております。大変、私、憂慮しております。こんな時だからこそ自分の身を守ってほしいし、また相手の立場を考えるとという思いやりの心、これがすごく大事だということを、今日、皆さんにお伝えしたいなというふうに思います。私どものスローガン、これ、変わったのをご存じですか「いのち」を大切に「くらし」を大切に」という私たちの大きなスローガンの下に、わたしの、あなたの、みんなの、というふうに付け加えさせていただきました。One for all, all for one ですね。そんな気持ちでこの難局を市民のチームワークで乗り切っていければなというのが私の願いであります。思いやりの心を持っていただきたいな、相手の立場を考えて行動してほしいな、私の願いであります。

そういった観点から朗報もあります。今日は、こんなときこそ思いやりの心を持ってほしいということ 키워ワードに三つほど話題を提供したいと思います。まずは今朝ほど報道がありましたけれども、令和3年度に向けて市立松野小学校において、重い障がいのある医療的ケアが必要な子どもを受け入れる取り組みについて、大きな一歩が踏み出されたことをお伝えしたいと思います。この取り組みは通常であれば特別支援学校に通うほどの困難を持つお子さんを、地域の子どもたちと一緒に学校に通うことができるようになる、地元の小学校で受け入れることができるチャレンジングな施策であります。これまでそのお子さんの保護者の方とも何度もご相談を重ねてきました。どうしたらこの子を受け入れることができるのか、教育委員会の所管の職員が一生懸命考えてくれました。私はSDGs未来都市として誰一人取り残さないという究極の理念を掲げております。そんな理念から検討を進めてくれたものというふうに受け止めております。

そして、私自身もこのチャレンジングな取り組みを、やってみようじゃないかと強く、教育委員会に指示してきました。このたび、ようやくこのお子さんのために学校の工事内容も決まり、専門的な教員の体制も整え、この子のための授業をするめどが立ちました。本市で初めての意欲的な取り組みであります。SDGsの未来都市としての責任を果たしていくために静岡市の将来を担う子どもたちが、ここからお互いを思いやる気持ちを育てていく大きな力になることを期待して、この取り組みをご紹介いたしました。

また、このお互いを思いやる気持ち、これは新型コロナウイルスに立ち向かっている今だからこそ私たち市民が大切にすべき価値だと考えております。自分だけでなく周りの人、みんなのいのちも、くらしも大切にしようという思いを、この、わたしの、あなたの、みんなのという言葉に込めました。というのも先日クラスターが発生してしまった、そして、公表し

た静岡済生会総合病院の関係者の中にいわれのない誹謗中傷、差別を受けている方々がいると聞き、とても心を痛めております。済生会病院さんは新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れていただき懸命の治療をしてくださった。まさに、感染症と最前線で闘ってきている医療機関であります。感謝をしたいと思えます。その感染予防に努めて、細心の注意を払っていたこの病院さえ感染が広がってしまった。本当にこのウイルスの闘いというのは難しいものだなというふうに痛感をしています。

そんな医療従事者、病院の職員の皆さん、そして、そのご家族の皆さん、さらに入院患者の皆さんが誹謗中傷、差別を受けていらっしゃるという悲しい報告も受けております。例えば職員や入院患者さんの家族が、会社から出勤停止を言い渡されたりだとか、別室での仕事を指示されたと、職員の子どもという理由で保育園への登園を止められた、職員がホテルの利用を断られた、そういった事案があったそうであります。

市民の皆さんにお願いをしたいのは、新型コロナウイルスを自分事として捉えていただきたい、そして、絶対に差別や中傷はやめていただきたいと、こういうことをお願いいたします。気をつけていても誰もが感染する可能性がある、自分が絶対に感染しないということはないのであります。静岡市民の皆さんは自分のいのちとくらしと同じように、周りの方々、相手の方々のいのちとくらしを大切にさせていただける、そんな市民であると私は信じております。

合わせてウイルスに関連して、お互いを思いやるという観点のもう一つお伝えしたいことがあります。市内では今月に入り 25 日までに飲食店でのクラスターが 6 件発生しています。お店の名前については、来店者など感染者に接触した可能性のある人を把握できているということを確認して、これまで公表してきておりません。それは先ほどの見地からでもあります。感染者からのヒアリングに奔走してくれている保健所の職員から店名をあえて公表しないことによって店舗側から積極的な情報を得られているという報告も受けております。しかしながら一方、店名を公表しないということに対して多くの市民の皆さんが不安を感じているというふうにならぬ方からお聞きをします。

先日、市議会の複数の会派の代表の皆さんからも店名公表を求める要望をいただきました。静岡市内での感染増加に伴い不安の声が高まってきているという表れだと思えます。どんなに感染予防対策に力を注いでも、完全にリスクを回避できるとは言えない中、事業者の皆さんにも思いを寄り添いながら市民の皆さんの不安もできるだけ軽減できるよう、飲食業などの関係団体の皆さんにも協力を求めており、今後は店名の公表も含めた対応を協議してまいります。

市民の皆さんにはお互いに思いやりを持って自分自身のいのちとくらし、周りの方々のいのちとくらしを大切に、ともに新型コロナウイルスと闘っていきたい、それが私の思いであります。報道機関の皆さんにおかれましては、ぜひ、私の真意をお伝えいただければありがたいなと思えます。

それでは今日の話題に移ります。桜ヶ丘病院の移転に係る新たな移転候補地の提示につい

てであります。昨日、静岡市がJCHOへ情報提供をしましたのでご報告いたします。先月13日にトップ会談、私と尾身理事長が会談をいたしました。そのとき、桜ヶ丘病院の移転については移転ありきではなく、清水地域全体の医療体制がどうあるべきかという大所高所、あるいは中長期的な展望の中で桜ヶ丘病院の新しい役割について、おのずから結論が出ていくんだろうということに同意したわけであります。

そこで、桜ヶ丘病院の担う新しい役割を静岡市全体の医療の関係者で協議していくことを、そして、その中で特に救急医療に関わる役割については、今月中にその方向性を示すということに意見を一致させました。これを受けて、今月18日に清水地域の医療関係機関や、県の、市の行政の職員等が参加する協議会において、各病院の救急医療に関わる役割について協議を行っていただきました。その会議においては、各病院では医師確保を前提とした上で清水地域の二次救急の輪番体制を確保していきたい、それに伴う適正な病床数についての方向性が合意されました。桜ヶ丘病院は将来に向けて地域の住民の皆さんがいつまでも安心して暮らせるまちづくりをしていく上でとても重要な病院であります。現在の施設は建築後50年以上が経過し、老朽化が著しいことから、その施設整備は待たなしで緊急性が非常に高いものだと認識しております。

本市としては協議会での協議内容を検証した上でコンパクトシティを目指す清水都心のまちづくり方針、交通弱者に対応するための交通結節点での配置、一方JCHOの求める、より早期の移転新築等々総合的に勘案をし、4カ所の候補地を選定し、昨日、JCHOに対して情報提供を行ったところであります。その場所はJR清水駅東口公園の一部とJR清水駅東口広場とJR清水駅周辺の民有地2カ所の計4カ所であります。この中には新清水庁舎の移転先である清水駅東口公園の一部も含まれております。

現在、清水庁舎の移転についてはコロナ禍の影響を受け、事務手続きをいったん停止している状況ですが、今後、ポストコロナ時代を見据えた新しい庁舎の在り方、社会のデジタル化が急速にこれから進展していくだろうという時代認識の下、そこからもたらされる行政サービスの変化や感染症対策に対応したオフィスの在り方等々、調査研究をしていく必要があると考えます。これは国とも連動した調査になろうかと思えます。国の行政デジタル化のロードマップ、昨日、今日の新聞報道もなされておりますが、だんだん骨格がはつきりしてきましたが、だいたい5年という期間の中でスピード感を持って議論をしていこう、清水庁舎の検討もそれに合わせていくことが必要だろうというふうに思っています。

一方、桜ヶ丘病院の移転は喫緊の行政課題であります。大変重要で緊急性が高い課題であります。本市にとっては清水庁舎の移転、そして、桜ヶ丘病院の移転、どちらも重要な事業であります。市民の皆さんの命に係る地域医療の確実な存続、これが現段階においてはより緊急性が高いと判断をいたしました。さらに東口公園は、より広い敷地を確保できるという点で病院の設計の自由度が高まり、利用者にとって使い勝手の良い病院施設の整備が可能になるということも重要なポイントであると考えております。

これらのことから、東口公園の一部を移転先候補地の一つとして提示させていただきまし

た。今後につきましては、できる限り早期に移転新築が決定できるよう積極的に協議を進めてまいり、最終局面では私自らが臨みたいと考えております。一方、医師の確保についても引き続きJCHOと連携して取組を進め、地域の住民の皆さんが安心して受診できる清水地域の医療体制の確保に向け全力を尽くしてまいります。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の発表につきまして各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。

ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。

NHKさん、お願いします。

◆NHK

NHKです。冒頭おっしゃっていただきました松野小学校の障がい児の入学についてなんですが、私、去年10月に、この記者会見で問題提起して以来、再三お尋ねしてきて、来年度からの転校が実現するのは第一歩ではあるんですけども、一方で、残念ながら命の時間が他の子に比べて限られていると言わざるを得ない彼の小学校の生活、6年間のうちの3年間を希望が叶わないまま来てしまった。彼、平成23年4月生まれで、生まれたときから田辺市政なんです。誰一人取り残さないをずっと掲げてきた市長の下で、しかも、急に言い出したわけじゃなくて、年中さんの頃から静岡市の小学校に入りたいとずっと言い続けてきたのに3年間希望が叶わなかったこの期間を持たせてしまったことを、市長、どう捉えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

一日、一日が医療的ケアを伴う子どもたちにとっては大切な人生ですから、時間がかかってしまったことは申し訳なく思っております。

◆NHK

後に続く子どもたち、医療的ケアの子どもはどんどん医療技術の発達とともに昔だったら命を落としていたような子どもも救われるようになって、その分地域で暮らしている子どもがどんどん増えているわけですけども、後に続く子どもたちにはこういった思いをさせずに希望によって特別支援学校も地域の学校もどちらも選べるということにしていくことは目指していかれるのでしょうか。

◆市長

先ほど私が大きな一歩を踏み出したという表現を使いましたが、来年度から3年間、松野小学校を、一番彼のことをよく知っていますので、研究指定校に指定するということを決めました。松野小学校での取り組みは、これまで静岡市が行ってきた教育以上に高い専門

性を要するものであると思われます。本市の中でも高い専門性を有する教員集団を配置して実施しており、現状では、まずは研究してみると、3年間。

そして、公立小学校で本当にきちっとした体制が取れるのかどうかということをもまず3年間、お母さんもおっしゃっていますけども、彼を一つのモデルとして挑戦をしていきたいというふうに考えています。

◆NHK

分かりました。もう一つあります。今回、看護師の配置はされないと聞いております。お母さんが学校に付き添って人工呼吸器などの管理をするか、引き続き、お母さんとお父さんが自費で手配している看護師さんを来てもらうか、どちらかが前提になると伺っております。看護師を配置せずに保護者が付き添うことについては、文部科学省の間でも専門家でも、「やはり教育上、保護者がずっと教室にいるというのは適当ではないのではないか」ですとか、そもそも負担が重すぎるといふ指摘もあります。この看護師の配置については、今後、検討はされるのでしょうか。

◆市長

もちろんそういうことであります。だからこそ研究指定をして3年間、一つひとつ経験を積み重ねていくということでもあります。理想はそこでもあります。でも、そこに至るまで、やはりいろいろな検証をしていかなければいけないということでもあります。

◆NHK

分かりました。清水庁舎について伺います。桜ヶ丘病院の関連ですが、先ほど国のデジタル化ロードマップを5年という期間で議論するというのに合わせてとおっしゃいました。つまり、清水庁舎については、5年程度は議論に費やす、移転に向けた候補地の選定や設計や着工は行わないという意味で捉えてよろしいのでしょうか。

◆市長

後ほど実務的にアセットマネジメント課から答えてもらいますけれども、それは大枠であります。大枠、つまり、例えば自治体のシステムの件も国がきちっとその概要を決めてもらわないとやはり我々は対処できません。いろんな、税務にしてもそうですし、国保にしてもそうですし、そういう流れの中でいろんなことを国と連携していかなければいけません。だから、おおむねは国と歩調を合わせてやっていくということではありますが、少し補足をしてください。

◆アセットマネジメント推進課

アセットマネジメント推進課、山田でございます。よろしく申し上げます。

国の示した7月に骨太の方針というものが示されておりますけれど、その中で行政のデジタル化について強力に推進していくということがうたわれております。それを紐解くと、おおむね令和3年、令和4年度、この2カ年をかけて国のほうで専門家会議等を開きながら検討、検証していくということです。

その後、おおむね3年ぐらいをかけて実証実験をしていく、その結果がおおむね5年ぐらいかかるんじゃないかというようなことが、ロードマップで示されております。清水庁舎の検討にも国のそういった検討結果を受けて進めていきたいとは考えておりますけれども、国ではそうやって実証実験に3年間かけるといような見込みでおりますけれども、でき得る限りなるべく早く、我々もそういった方向性を示していきたいと考えておりますので、全く5カ年かけると、今、ここで決めつけるものではございません。以上です。

◆NHK

引き続き伺いますが、令和3年、4年かけて国が専門家会議で検証検討している間は、清水庁舎の移転の具体も進めないということでしょうか。

◆アセットマネジメント推進課

今、その結論は拙速に出すべきではないというふうに考えております。

◆NHK

書き方に関わるんですが、いずれにしろ来年度早々に具体化させるというよりは、まず国の議論を見ながら数年はじっくり検討するという理解でよろしいですか。

◆アセットマネジメント推進課

その必要があるというふうに考えております。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

クラスターの店名公表問題で、それを市長が店名の公表を含めた対応を協議するっていうことをおっしゃったんですけど、今までも静岡市っていうのは店名の公表っていうのは把握できていない場合は公表するっていう前提だったと思うんですが、これ何か変わったんですか。

◆市長

一番私たちの重きを置いていたのがそのお店の同意であります。その同意を取り付けるのであるならば公表すべしだというふうに私は思っています。ですのでその仕組みをどういうふうにこれから作っていくかということについての検討を指示しました。

◆静岡新聞

同意に関しても、同意が取れたら公表するっていうのもこれまでもそうだったと思うんですが、その同意の取り方に関して何か変えるっていうことでの理解でよろしいですか。

◆市長

これは実務的に少し補足をしてもらいますが、そういうことであります。

◆静岡新聞

あともう1点。

◆市長

誰かな。どうぞ、どうぞ。

◆静岡新聞

昨日発表にありました市内11例目の接待を伴う飲食店のクラスターで、市が調査対象として把握していない感染者が出た、いわゆる追えていない感染者が出たっていう事実があるんですけども、本来の市の規定であるならばこれは店名を公表すべき事案に当てはまると思うんですが、この件に関してはいかがですか。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長の和田です。店名公表の同意についてですけれども従来はもうすでに皆さんにお示した通り、利用者等が把握できている場合は店名公表については積極的にには行わないということで、強く同意を求めてきたということはありませんけれども、市民の不安が高まってという中で、そこの辺の同意の求め方も少しどうしていくかというのを業界の皆さまのご意見も聞きながら協議をしていきたいということでもあります。それからもう一つ、昨日発表した11例目のクラスターの件につきましては、その後しっかりとそれぞれの利用、その方の行動歴等を調べた中で、今クラスターに入れるべきかどうかのところは本日午後の記者への発表の中で少し詳しく説明させていただきますのでそちらをお待ちいただきたいと思います。

◆静岡新聞

分かりました。もう1点、別の清水庁舎の関係なんですけれども、清水庁舎は基本計画っていうものがあって今敷地面積であるとか規模みたいなものが定められているんですけれども、今回候補地に東口公園というものを提示することによって、その基本計画で今まで考えていた清水庁舎の規模であるとか面積みたいなものは基本的にはもうじゃあ完全に見直すっていう考えでよろしいですか。

◆市長

まずJCHOさんがどの候補地を選ぶのかという先の話ですよ、これは。

◆静岡新聞

そうするとじゃあ選んだ時点でそれをどうするのかっていうのを考えるっていうことですか。

◆市長

桜ヶ丘病院ありきではありません。大事なウォーターフロントに向かうJR清水駅の玄関口ですので中長期的な観点に立って、どういう市の顔であればいいのかということについて幅広に考えていきたいというふうに思っています。

◆静岡新聞

現時点では清水庁舎の基本計画にある規模であるとかっていうのを見直しは考えていないってことですか。

◆市長

本来この東口公園については庁舎とにぎわい施設と立体駐車場の3点セットだったわけですね。その一部を病院が望むことになれば、この3点セットということについてじゃあ全部をそこに建設をするということは事実上不可能になるわけですね。ですから先ほど申し上げました通り、どんな施設を立地すればいいのかという検討が始まるということでありませぬ。実務的には少し補足をさせていただきます。

◆アセットマネジメント推進課

アセットマネジメント推進課です。先ほど来JCHOに提示したのが東口公園の一部という表現を市長のほうから説明させていただいておりますけれども、その一部で残ったところにはまだ土地があるわけですね。そういった観点からも、先ほどイチカワさんおっしゃったように庁舎移転を全否定してしまうというのではなくって庁舎移転の可能性を排除するものではないというふうに考えております。以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆静岡放送

静岡放送です。お世話になります。お店の同意が得られなければ公表しないとお話ありましたが、8月の時点で市長自らクラスターが5人以上という基準満たさなくても店舗名を公表すると話していたことが印象に残っているんですけども、今だいぶ流れも変わってきたと思うんですけども、店の同意が得られなければお店の名前を公表されないということになるんですか。

◆市長

状況がおっしゃる通り変わりましたね。市民の皆さんの不安が高まっています。そういう中でフレキシブルに対応したいということでもあります。

◆静岡放送

そうなりますと、後ろのキャッチフレーズじゃないですけども、わたしの、あなたの、みんなのいのちを大切に、くらしも大切になっていくことにやはり市民の方も不安になる部分多々あると思うんですけども、市長としてはご自身として今の意見といいますか、公表されないことについてはいかがでしょうか。

◆市長

そのほうが不安が結果的に高まるのならば公表をするということを前提のさまざまな検討をするように指示をしたところであります。

◆静岡放送

でもやはり市民としては不安な部分ってあると思うんですけども、その辺り市長としてくむとしたらやはり公表は速やかに、早急にするべきかなというふうに思うんですけどもいかがでしょうか。

◆市長

そんな単純なものではないということをご提起、ご理解いただきたいと思います。

◆静岡放送

やはり難しいということですか。

◆市長

感染拡大防止と社会経済活動の維持というものを掲げております。飲食店の中からは絶対公表しないでくれと、これもう本当に生き残りをかけた大変な厳しい闘いをすると。非常に小さなお店、財務体力が低い、そういう店が公表したことによってお店自体が吹っ飛んじゃうんだと、閉店廃業に追い込まれてしまうんだと、そういう切実な声も聞いております。

◆静岡放送

そうなる経済優先っていう考えですかね。

◆市長

違います。全然違いますよ。また少しお話をさせてください。

◆静岡放送

分かりました。

◆司会

それでは先に中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。店名公表の件で、店名公表とまではいかななくてもやはりカラオケを伴う飲食店といってもママが1人でカウンター5席みたいな感じだったり、あともっと広いフロアのお店だったりっていろいろあると思うんで、そういう店の見取り図じゃないけれど、うまいあんばいで公表っていうのはできないんでしょうか。店名とまではいかななくても落としどころとして公表の基準はあるんじゃないかと思うんですけども。

◆市長

なるほど。参考にさせてください。その通りですよ。結局ケース・バイ・ケースなんですよ。ですから本当に非常に感情的に自分が感染させたくないという不安の声が市民の皆さんに高まっていると思うんです。飲食店の方々にも同じカテゴリーのお店からは、出したところが悪いんじゃないかと、俺たちも風評被害受けちゃうよという、そういう声も聞いております。だからもう特定してくれよと、そうすれば僕らは客減らないからというふうに言って公表してくれよということをおっしゃるわけですよ。その辺りはケース・バイ・ケースになろうかなというふうに思います。

◆中日新聞

あと別件の話になるんですけども、市のほうが飲食店の方々に希望者にPCR検査を拡充

させていくっていうのが先週の危機対策会議で。

◆司会

そこについては後ほど幹事社質問のほうで入りますので、すみません。

◆中日新聞

分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いします。

◆第一テレビ

第一テレビです。お願いいたします。桜ヶ丘病院についてなんですけれども、JCHOからの返答はいつ頃までに求めているんでしょうか。お願いします。

◆市長

できるだけ早く返答を期待をしています。

◆第一テレビ

だいたい昨日の提案の中でいつ頃をめどにというお話は出ていないでしょうか。

◆市長

JCHOさんが解説しなきゃいけない、つまり耐震をするかどうか、その作業を進めなきゃいけないという喫緊の課題に対応して今回4案を提示したのでJCHOさん自身も速やかに検討を進めてもらえるだろうというふうに期待をしています。遅くとも年内には何らかの返答があるんじゃないかというふうに私は認識しています。

◆第一テレビ

ありがとうございます。もう1点、先ほどヤマダ課長から移転の可能性を排除するものではないというふうなお話がありましたが、移転はいずれ将来するにしてもいったん一定期間移転をせずに現庁舎を耐震化するという、そういった可能性も出てきたのではないかと思います。その辺りはいかがでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りです。もちろんそうですね。それも同時並行して現庁舎でどうするかという議論もその先の課題として見据えながら、このことを検討していかなければいけないとい

うふうに思っています。

◆第一テレビ

現庁舎の耐震化もあり得る、分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

読売新聞のキンジョウです。よろしく申し上げます。すみません、静岡新聞さん、第一テレビさんの質問と続くんですが、もし病院が清水駅の東口公園に移転した場合、今のところ一番可能性が高いのは広いから病院と庁舎を両方ってということが大前提としてあるんですか。

◆市長

大前提と言うと言い過ぎかもしれませんが、一つのオプションとしてはあると。

◆読売新聞

オプションとして。その他で庁舎の耐震化の他、庁舎を他の移転予定地にという可能性もオプションとしてはあるんですか。

◆市長

それを幅広にこれから検討していきたいと思います。ただやはり、なぜ庁舎を移転するかというのは交通アクセスの問題だったり、中心市街地であったりいろいろ考えた末の結論なので、そう簡単にそういう移転先を決め打ちするということは難しいんだろうなど。もういったん議論済んでいますしね。

◆読売新聞

確認なんですけど、さまざまなオプションがあり得る中で病院と移転した庁舎を東口公園に両方というのが今のところは一番可能性があるオプションなんですか。

◆市長

そんなことはありません。それはもうニュートラルです。庁舎、にぎわい施設、立体駐車場、この3点セットで7,000㎡を活用していこうということであるので庁舎ありきではありません。

◆読売新聞

度々すみません。庁舎の移転と耐震化っていうのはオプションとしてこれもフラットなんですかね。

◆市長

もう幅広の議論があるということでもあります。その議論に入ってきてほしいぐらいです。

◆読売新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

発表案件につきましてその他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では幹事社質問に移りたいと思います。朝日新聞さん、お願いします。

◆朝日新聞

今月の幹事社の朝日新聞社です。よろしくお願いたします。最初の質問のほうは先ほど市長のほうかもうすでにご発言されたということで省略いたします。もう一つ、先のコロナ感染症対策会議で市長は飲食店へのPCR検査体制を強化していきたいという方針を打ち出されました。具体的にどういう取り組みを行うのかお聞かせください。

◆市長

まずは先ほど中日さんのご発言の中にもありました通り、カラオケを伴う飲食店、あるいは接待を伴う飲食店、これが最も集積しているのは葵区の中心市街地ですね、両替町界限です。この中心市街地における当該店舗の従業員を対象にしてPCR検査を無料で実施していきたいと思います。今1回2万とか3万とか相場がいろいろあるみたいですが、とにかくこのPCR検査を早急に実施していきたいと思っています。来週をめぐりに対象となる店舗の方にはダイレクトメールで検査のご案内を送ってきたいと思っています。今の試算ですと対象の店舗数はおおよそ1,000ぐらいになると見込んでおります。検査を希望される場合は所定の手続きを経て指定する提出日に合わせて検体を自己採取をして市に提出をしてもらうという手順を踏みたいと思います。検査結果は個別にお知らせをして、万が一陽性の場合には感染症予防法に基づき保健所が調査を行い、必要な治療等を受けていただくことになろうかと思っています。年末年始を迎えるに当たって飲食店業界の方々も安心して営業ができ、市民の皆さんにも安心して店舗を利用してもらえようという両立というものを図っていかなければなりません。潜在的な感染者の存在を把握して早期に治療をつなげることが大事だという観点からPCRの無料検査の実施に踏み切りました。

◆朝日新聞

ありがとうございます。約1,000店ということですが、規模的な対象人数、どれくらいを  
だいたい想定していらっしゃいますでしょうか。

◆市長

これは実務的に答えたほうがいいかな。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局の和田です。現在、これは仮にですけれども、1店舗5、6人程度の経営者  
およびオーナー、従業員の方がいらっしゃると仮定して5、6,000人が対象になると今考え  
ておりますけれどもそのうちの、浜松の事例なんかを見ると3分の1は受診なさるとい  
うことでそのぐらゐの対象人数、2000人程度までを想定して今準備を進めてるところです。

◆朝日新聞

ありがとうございます。検体を採ってということですが、それは例えば会場を設けて対  
象者から持ち込ませるのか、あるいは郵送という形なのか、その辺ちょっと細かいんですけ  
ども教えていただけますか。

◆保健福祉長寿局長

今のところは郵送というよりも一定の場所を決めさせていただいて、そこにご自分で検体  
を採っていただいて持ち込んでいただくという形をとりたいと思っていますけど、今詳細  
は詰めているところですので、申し訳ありませんけど、今そういった状態で検討を進めてい  
るところです。

◆朝日新聞

重ねてお尋ねいたします。そうすると会場を設けてそこに対象者の人たちに足を運んでも  
らってその場で唾液等を採って手渡すと、こういうイメージでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

いえ、そうではなくて、容器を配布いたしますので自ら店舗なりで従業員の方の唾液を採っ  
ていただいて、採って安全に包んだものをどこか一定の場所に持ってきていただくという  
形をとろうと思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

それではただいまの質問の関連で各社さんからご質問がありましたらお願いします。NHKさん、お願いします。

◆NHK

となると、6,000人程度、1、2万、3万の検査をするとなると億は下らなさそうですけど、この予算は予備費対応ですか。

◆保健福祉長寿局長

現時点では予備費を考えております。

◆NHK

災害対策とかで積み立てられているあの予備費ですね。

◆保健福祉長寿局長

そうです。

◆NHK

容器に唾液を入れると。で、その容器自体をダイレクトメールで、もう送ってしまうということですか。

◆保健福祉長寿局長

いえ、容器自体は取りに来ていただくことを想定しています。

◆NHK

保健所なりしかるべき場所に2往復してもらってということですかね。

◆保健福祉長寿局長

はい。ちょっとご足労をかけますけど、確実にお渡しして確実に返していただくという方式で。ある程度唾液の有効時間もありますのでそこら辺をしっかりとお伝えしたいってこともありますので、一応2往復していただくということを考えています。

◆NHK

さまつなことかもしれませんが、これ確かに両替町周辺の飲食店、しかもカラオケや接待を伴う飲食店で勤める従業員であるという確認、職業の証明のようなものは求めるんでしょうか。それがなくてただで受けた人が身分を偽って受けるということも可能になるので

は。

◆保健福祉長寿局長

基本的には店舗単位で受けていただくこととなりますので個々の受付ではありませんので。

◆NHK

じゃあその店舗のものであるということを名刺か何かで確認した上でというようなイメージですかね。

◆保健福祉長寿局長

確認方法については今後詰めたとは思っておりますけども、お店のオーナーなりに届けていただくという形で確認を取りたいと思います。

◆NHK

確認ですが、来週それができるように体制をもうこの週末詰めるということですね。

◆保健福祉長寿局長

いえ、ダイレクトメール自体を来週中には発送したいなというふうに考えております。

◆NHK

実施できるのは再来週とかになるってことですか。

◆保健福祉長寿局長

ええ。どうしても日程調整とか検体の回収の仕組みも構築しなきゃいけないので、そこら辺も含めて、検査自体はそのぐらいの時期の開始になると思います。

◆NHK

再来週に実施できるようにということですね。

◆保健福祉長寿局長

そうですね。12月の中旬ぐらいからの検査の開始になると思います。

◆NHK

翌日とか2日、3日で検査結果は出るんでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

今想定しているのは民間機関への検査の依頼になりますので、翌日というよりも2日ほどかかるかと思います。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

それではその他質問ある方はお願いをいたします。いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

対象店舗についての質問です。1,000くらいにとあるんですが、これは例えばクラスターが発生し得る可能性が高いとかそういったことになるんですか。どういう基準で1,000くらいってことになるんでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

飲食店の中でもカラオケや接待等を伴っていると思われる飲食店を選びまして、そこにダイレクトメールを送るといった形になります。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他ご質問ありますでしょうか。朝日新聞さん、お願いします。

◆朝日新聞

確認ですが、これは先ほど市長が葵区っていうふうにおっしゃっていましたが、駿河区、清水区にもこうしたお店はあると思うんですけど、全市を対象ということでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

現在のところは、まずは葵区のこの最も集積している地区で行わせていただいて、その結果を見て他の区もやっていくかどうかについては検討をしたいと思います。

◆司会

よろしいでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。仮に検査をして陽性が反応出てしまった場合、その店への休業補償など、そこまでは考えていらっしゃるのでしょうか。休まざるを得ないですよね。

◆保健福祉長寿局長

現時点ではちょっとそこまでは協議をしておりません。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆静岡放送

静岡放送です。これ、カラオケや接待を伴うところを対象店舗とされていますけども、もしそこで発覚した場合は市としては発表していただける認識でよろしいんですか。

◆保健福祉長寿局長

陽性者については今まで通りの発表に当然なりますので。

◆静岡放送

お店の名前はいかがですか。

◆保健福祉長寿局長

公表については現時点では今まで通りの扱いになりますけれども、先ほどの公表の話がありましたけれども、クラスターについてはまた今後の検討ということになります。

◆静岡放送

これってお店のためにやっているんですか、それとも市民に知らせるためにやっているんですか。その辺りの認識としてはいかがでしょうか。

◆市長

どちらのためにもやっているんです。

◆静岡放送

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それではその他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で。第一テレビさん、お願いします。

◆第一テレビ

すみません、お願いいたします。昨日の感染者の発表の中で静岡市の病床が5割以上埋まっ  
ていて、入院調整が非常に難しくなっているというようなことがありました。これにつ  
いて市長はどのようにお考えで、またこういった事態が悪化しないために市民に呼びかけ  
たいことはありますか。

◆市長

とにかく思いやりの心を持ってほしいということをお今日冒頭呼びかけさせていただきました。そして基本的なマスクの着用、自分自身がうつらない新しい生活様式の徹底、これもこ  
ういう時期ですから重ねてお願いをしたいというふうに思っております。またこれから静  
岡市に重きを置きたいのは重症者を出さないということですね。感染者にはもう千差万別  
で無症状の方もおりますけども、その中で命の危険にさらされる重症者を出さないよう  
にしたいというふうに私は考えております。ですので、お年寄りの方々は一般的に重症化し  
やすいというふうにいわれておりますので、お年寄りの方々に配慮をして思いやりの心を持  
って接していただきたいということを若い方々にもお願いをしたいというふうに思います。  
また重症化を万が一してしまっても、静岡県内で唯一、静岡市立静岡病院がECMOをフル稼  
働させてもらい、最新の治療を万全にできる体制を整えております。また市の場所の場合  
は余裕があります。それはオノデラ院長はじめ医療スタッフ、ハードの機械があるだけではなく  
て、24時間大変いろんな目線からチームで治療をしていかなければいけない高度な作業  
なんですけども、それを静岡病院はやるぞというふうに決意をしてくれていますので、その  
面でも静岡市は万全だぞというふうに私は理解をした上で重症者を出さない取り組み、そ  
して命を落とさない、そういう取り組みをこれから強化していきたいというふうに思っ  
ています。

◆司会

では朝日テレビさん、お願いします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。コロナ関連で3点質問させてください。1点目が現在の静岡市なん  
ですけれども、国の基準ステージ3相当の感染が急増している地域に当たるという認識が  
あるのかどうかということです。2点目が市内の飲食店に時短要請を行うよう知事に求める  
考えがあるのかどうかということです。3点目が大阪と札幌を目的地とするGoToトラベルが除

外されていますけれども、市としてはどう考えているかっていうことをお聞かせください。

◆市長

2点目は私から答えますが、今、時短営業を知事に要請するつもりはありません。1点目と3点目は保健福祉長寿局から答えてください。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の杉山でございます。感染については、今おっしゃっていただいたように感染拡大している状況にある、急増している状況にあると。数的にも先週から30台超えている、38、9件、あるいは30前後という、出ていますのでそういう状況にあるかなという認識でいます。

◆静岡朝日テレビ

3点目についてはいかがでしょう。

◆市長

3点目の質問もう一度繰り返してもらったほうがいいんじゃないかな。

◆静岡朝日テレビ

GoTo トラベルの関連で大阪と札幌を目的地とする GoTo トラベルが除外されましたけども市としてはどう考えていますでしょうか。

◆市長

じゃあ私が答えようか。まだそれは求めるつもりはありません。

◆危機管理課長

補足をさせていただきます。

危機管理課長、神長と申します。ただいまのGoTo トラベルについての質問でございますが、まず静岡県の警戒レベルはただ今レベル4ということで、県内者の県外への移動および県外者の県内への移動につきましては対象地域に応じて行動制限、注意を要請するということになっております。今質問にありましたように感染急増が深刻であります札幌市、大阪市とは感染拡大の状況が異なりますので現時点では静岡県をGoTo トラベルの対象から除外すべきであるとは考えておりません。以上でございます。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。1点目の質問なんですけれども、静岡市としては国の基準ステージ

3相当に当たるという認識ということではよろしかったでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

的確に国の基準と合致しているかどうかというのはちょっと分かりませんが、現状の患者発生状況から見ると患者は急増している状況にあるのかなというふうに判断しております。

◆静岡朝日テレビ

じゃあ相当するんじゃないかというところで。

◆保健福祉長寿局長

そうですね。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

よろしいでしょうか。それでは以上で本日の会見を終了させていただきます。次回は12月の10日、木曜日となりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。